
『禁・三国無双』 ～孫呉編～

こんたそば

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『禁・三国無双』 〱孫呉編〱

【Nコード】

N6422Y

【作者名】

こんたそば

【あらすじ】

後輩が持つて来たゲームをサークル仲間と共にクリアしようとスィッチを入れた俺は、自分自身が育ててきたキャラクターに憑依した上でゲームの世界に入り込んでしまった。

ヒロインの攻略方も、ストーリーの行方も分からないがやれることはやっていくしかない！

目指せ、ハッピー・エンド！！できればヒロインと添い遂げたい！！

プロローグ

プロローグ

俺こと、北郷一刀はとある大学の3年生。

専攻は教育学部、趣味は歴史。戦国時代や三国志などのことが話題に上るとちよつと燃える。

1年生の時に『歴史研究同好会』というサークルを立ち上げて、日夜資料を読み新しい発見を模索して……いるようなことはない。趣味の合う友人や後輩と共に会話して盛り上がったたり、戦国武将や三国志の英雄をモチーフとした漫画やゲームをして楽しい時を過ごしたりしている。

最近、特にはまっているのが後輩の篠塚健治が持って来た『禁・三国恋姫』というエロゲである。

ちなみに媒介はDCPドリーム・キャスト・ポータブルという小型の携帯ゲーム機だ。DCPの魅力は無線ネットワークを使い複数の人間で同じゲームをプレイし攻略できること。

『禁・三国恋姫』というのは、一昨年辺りにパソコンゲームとして発売され、バグや修正を経てDCPにおいて発売されることになったもので価格は新品で8860円と高額だが、購入者の反応は上々である。

ヒロインは全員可愛いし、そのヒロインたちと絡むシーンCGもかなりエロくて最高である。

ただ、そこまで行き着くには長くて辛い過程がある訳で……。

- ・ まず、プレイヤーは自身の分身となるキャラクターを作成する。
- ・ その後、自身が所属する勢力を選ぶ。【蜀・魏・呉・袁・漢・南】の中からひとつ。

- ・ 難易度は南蛮が『Very Easy』、袁家が『Easy』、劉蜀が『Normal』、曹魏が『Hard』、孫呉が『Very Hard』、漢王朝が『Maniac』となっている。

- ・ ネットにアップされるシーンCGは南蛮か、袁家、もしくは劉蜀の三つの勢力がほとんどで曹魏や孫呉はもとより、漢王朝のシーンCGがアップされるのは見たことが無い。つまり攻略者がいないわけだ。

- ・ ちなみにプレイヤーキャラクターがヒロインたちと接触できるようにするためには、キャラクターのレベルを上げて能力値を上げ、將軍又は軍師として登録される必要がある。つまり、周回プレイは必須。加えてひとつの勢力で利用できるのは1人のキャラクターのみ。しかも他の勢力では使用不可という鬼畜ぶり。

で、俺たち『歴史研究同好会』では話し合いの結果、難易度が『Very Hard』の孫呉を攻略するべくキャラクターをエディットした。ちなみに名前を考えるのが面倒であった為、孫呉ルートヒロインとして登場しない孫呉の武將の名前をつけることにした。俺の場合は、太史慈だ。真名は本名の一刀を使用。

- ・ そうそう、【真名】っていうのは『禁・三国恋姫』の世界観に

あるその人の個性や生き様を表す神聖な名前で、親兄弟や信頼の置ける仲間などにしか教えないものだそうだ。異性に真名を教えるっていうことは、そういう関係になったという合図らしい。

ちなみに一緒にプレイする人間をここで紹介しておく。

篠塚健治 後輩 使用キャラクター名：魯肅

笹本京一郎 先輩 使用キャラクター名：徐盛

及川肇 同級生 使用キャラクター名：韓当

といった感じだ。真名は俺と同じように本名の名前を使用している。

さつきも説明した通り、『禁・三国恋姫』というエロゲの真髓に辿り着くまでには最低でも2周はしないとけないということで、俺たちは1周目と2周目のイベントフラグを一切無視して、自分の分身たるキャラクターたちの育成に専念した。おかげで2回とも独立後の曹操軍との戦いで敗北しゲームオーバーとなった。

1周目の時は「まあ、仕方がないさ。よし、次だ!」と思ったが…。

2周目の時は「王が不在って何だよ、これ!? 緊急事態、王が戻るまで防衛をしてくれ……」って、10万の兵をたった4000人とか無理だろ!! はあはあ、王発見? よし、盛り返すぞ! って、曹操軍の刺客によって王が討たれた!? 孫呉軍の士気がガタ落ちっ!? ふざけんなああああああ!!」ということ、4人で暴れた。

で、本命の3周目に至るわけだ。

「かずぴー、恨みつこなしやで」

「勿論だとも」

「ふふふ、楽しみだね」

「先輩方、こればかりは譲りません！」

俺たちは色とりどりのDCPを机の上に置き、向かい合っている。

「覚悟はいいな、お前ら」

俺の掛け声に頷く3人。

「いくぞ！最初はグー、じゃんけんぽん！」

俺…パ―

健治…チヨキ

笹本先輩…パ―

及川…パ―

「やったー！僕は本命の陸遜ちゃんをお願いします」

・ 最後に言い忘れていたが、恋人になれるヒロインは1周につき1人と決まっている。ハーレムは不可能ということだ。ただ、無線ネットワークを繋げて一緒にプレイしている人間にはシンCGが

送られて共有することができる。

結局、俺は負け越したのだが本命であつた孫呉の王である孫策は皆選ばなかった。俺が彼女を選ぶといつたら、皆に『お前、マジかよ』みたいな目で見られた。悪いかよ、コンチキショー。

で、4人揃つてDCPのスイッチを入れたのだが……

気付けば、俺は鮮やかな紅い鎧を身に纏い荒野に立っていた。

健治はどこぞの商人みたいな服を着込みその手には扇、笹本先輩は白い服の上に青い鎧を身に纏い大きな斧を背負い、及川はモンゴルの遊牧民が着ていそうな民族衣装みたいな奴を着ていた。

「「「「「は…どう?」」」」」

一話

一話

20年近く生きてきたが1度も遭遇した事の無い今現在の状況に戸惑いながらも、俺は遠くの方に見える山々を眺めて心を落ち着かせていた。

ありえない…と切って捨てることは簡単だが、身に纏う鎧の感触や重量感、頬を撫でる風の匂いなど現実味を持たせるには十分なものだ。間違いない、考えたくはないが俺たちはゲームの世界に何らかの理由で紛れ込んでしまったのだ。

元の世界に帰れる保障は無いけど、生きていくためには……って、

「俺がシリアス風味にあれこれ考えているのに、お前らは何やってるんだよっ!!」

「先輩、考えるよりも先に自分の状態を確認しないとやばいですって。兵士数がゼロになっているから、ここで賊に襲われたらまずいですって」

「そうか？」

健治はそう言って緑色のDCPを操作する。よくよく見れば笹本先輩も青色の、及川も赤色のDCPを操作している。

彼らに倣って俺も手に持っていた黒色のDCPを操作して、自身の状態を確認する。

「……とりあえず、育ててきた『太史慈』の身体らしいな。これなら、しばらく兵はいなくても大丈夫だろ」

気配を感じて顔を上げるとニコニコと笑みを浮かべた笹本先輩が目の前に立っていた。

「そういえば一刀くんって、資金が溜まったらキャラクターや部下の強化に専念していたよね。ちなみに一刀くんの攻撃力ってどのくらいなの？」

「えーと、……2万と10ですね」

「……2万!?」「」

俺と笹本先輩がいる所からちょっと離れた所にいた2人も俺の突然の宣言に驚き、作業を中断させて近くにやってきた。

3人が俺のDCPの画面を食い入るように見つめ、頬を引き攣らせた。

【ステータス】

名前：太史慈 字：子義 真名：一刀 資金：190

体力：6000 攻撃力：20010 防御力：15000 移動力：200

兵士最大数4000人

武器：名もなき剣（攻撃力：10）

スキル（自発）

『大号令Lv3』：3ターンの間、自軍部隊の攻撃力が15%上昇し、毎ターン15%の兵士数を回復する。

スキル（自動）

『指揮Lv3』：部隊に所属する兵士の攻撃力が30%上昇

『援護防御Lv3』：近くの自軍部隊の防御力を50%上昇

『援護攻撃Lv3』：近くの自軍部隊の攻撃力を50%上昇

「かずぴー、いくらなんでもこれはないわー」

「ゲームバランスの崩壊もいいところですつて。確か孫呉編の最大の難関である曹魏軍の曹操でも攻撃力3000に、固有武器『絶』の攻撃力3000を足しても6000ですつて。まあ、あちらの最大兵士数は10000人ですけど」

「一刀くんの部下も大概チートだね。その分、コストがべらぼうに高いけど」

「言わないで下さいよ、笹本先輩」

「ハハハハハ」

俺たちは談笑に近い雰囲気の中、自分自身の状態を把握していった。

「さて、これからどうする?」

俺がこう切り出すと及川と笹本先輩が腕を組んで悩み始めた。

これがゲームの場合、悩む必要もなく孫呉編の主要キャラクターの1人である黄蓋に連れられて、一兵士or一將軍、一軍師として雇用される訳だが。

「ぶっちゃけ、袁術軍の客将となっっている孫呉軍に行くメリットはないですよって。資金半分と兵を雇うコストが2倍になるのは痛すぎです。特に北郷先輩には」

健治が皮肉を交えて言い放った言葉に及川と笹本先輩は大きく頷いた。

くそう、別にいいじゃないか。最強無敵の軍って憧れるだろ。

「ここで僕は、最初の内は孫呉軍に加わずに建業などの街で太守となることを提案するって。この世界では官位をお金で購えたはず。ゲームをやっていたときは孫呉編にどうせ行くのに無駄な選択肢だなんて思っていたけど、今現在の状況なら自由気儘に動ける拠点も得られて、兵力や資金を集めるのに丁度いいと思うって」

「うん。その流れで進むっていうことは孫呉軍が袁術軍から独立した辺りで同盟なり、不可侵条約を結ぶってことか」

「憧れのヒロインと生身で絡めるって思っていたけど、それよりも自分の命の方が大切ですからって」

確かに…、と健治の言葉に俺自身同意する。

あの小麦色の母性を中心に色んな所を俺の自由にしたいっていう気持ちは勿論あるが、それよりも生きて元の世界に戻りたいっていう気持ちの方が強い。

「当面の方向性はそれでいいかな？」

と、笹本先輩が俺たちの意思を確認するように見渡す。

「それでええと思うで。ワイとしても、拠点があるほうが動かしやすいんや、アレ」

及川はどこか遠くを見ながら了承の言葉を発した。そういえば、及川のキャラクターってどういう方向性だったけ？健治は完全に内政向きなキャラクターだったし、笹本先輩のは奇襲をかけて敵の数を減らすことに特化していたはず。及川のキャラクターが活躍していたのって……反董卓連合の時の関攻めの時か。つまり攻城戦が得意なキャラクターってことだよな。

でも、それがなんであんな態度になるんだ？あいつの武器ってなんだったっけ？

「それじゃあ、先輩方。資金50000で、建業の太守の座と官位を買いますよって。ぽちっとな」

【ピロリン♪『太史慈』は『建業の太守』となった】

「5万をポンつと出すとはすげえ……………って、太史慈って俺じゃ

ん!？」

周囲を見れば3人に「何を今更」的な眼で見られていた。

「王が一番強い者を置いておかないと拙いでしょ。固まるのも偶にはいいけど、今はさっさと建業に向かうよ。太守さま」

「そうやで、かずぴー。色々とせなんことは山ほどあるんやからなま、太守の場合は文字通り山の如くあるんやろうけど」

「先輩、僕らも“少し”は手伝いますから、頑張つて生き残りましたよね。余裕が出来たら、ヒロインとにやんにやんしたいですって」

「健治！本音が駄々漏れだぞー！」

「大丈夫です、ワザとですからって」

おいおい。生き残れるのか、このメンバーで。先々が不安だ…。

二話

二話

健治の資金50000を払い、俺は建業の太守となった。

建業といえば孫呉の本拠地となる場所ではないかと思うかもしれないが、孫堅が生存していた時の本拠地は荊州の長沙であり、孫策らが袁術軍の客将となったのなら寿春の近辺にいるだろう。

俺が建業の太守となってはじめにやったのは、ユニットの作成だった。資金は健治持ちで。

ここで『禁・三国恋姫』のユニットについて説明しようと思う

・ まずユニットの追加についてだが、国のレベルによって生み出せるユニットのランクや種類が変わってくる

・ 現在はレベル1の状態なので、一番弱い『新米指揮官』コスト：150を作成しようと思う。

・ その後作成したユニットに名前をつける。今回は分かりやすいように【田中】とつけておこう。

【プロフィール】

名前：田中

体力：300 攻撃力：160 防御力：120 移動力：100

兵士最大数：100人

武器：名もなき剣（攻撃力：10）

- ・ 作成したユニットは一度作成したら消去できない。代わりに、最大100人まで作成できる。ただし周回プレイには持ち越せない
ので、そこら辺は注意しよう。

- ・ 部下になる兵士もここでつけておく。が、現在の建業の街に必要なのは戦闘に必要な兵士ではなく、俺たちの街を築く要員となる
わけで、今回は建築スキルを持つ市民兵をつけておく。

名前：田中隊 兵種：市民兵

体力：3 攻撃力：2 移動力：100 コスト：6（1人につき）

スキル（自動）

『建築Lv3』：建物をすごい速さで建てる事が出来る。兵士数
によって効率があがる

- ・ と、まあこんな感じである。

ゲームであれば、ユニットを量産して建築や農業・漁業、武器防具
開発など片っ端からやれたのだが、悲しいかな。この世界には俺た
ちと同じように生きている人間が多く存在する。彼らを蔑ろにして
建業の発展はない。

ということ、最初は建業自体を住みやすい街に変えていこうと思う。

俺たちは公共事業として、街で暇していた若者や仕事が無い者たちを雇って、メインストリートの拡張をして人通りを楽にした。その際、立ち退いてもらった方々には田中隊が立てた別の家に移り住んでもらったり、メインストリート脇に建てた店に入ってもらったりした。

街道整備なのだが、これは他の街と道を繋ぐことで流通をよくするために必須なのだが、今のところは近くの村に伸ばす程度にしておこう。

治安をよくするために元の世界でいう交番を建業の街の至る所に作った。何かあったときのためにいくつかの交番には『新米指揮官』のユニットを何体かおいておくでしょう。

内政に関しては次の機会にでも…ということ。

「健治の財布はとんでもないことが分かった所で、笹本先輩…ゴホン。徐盛、各地の状況を説明してくれ」

「一刀くん、慣れないのは分かるけどしっかりしてよ。まあ、いいや。とりあえず、僕の兵たちを各地に散らばらせて分かったことだけど、長沙の太守の名前は孫文台っていうんだってさ。年代に関しても『禁・三国恋姫』の舞台よりも結構前みたいだよ」

「それじゃあ、しばらくの間は内政オンリーやな。しかと農業や漁業、武器防具の開発等をやって地力をあげておけっていうゲームの

神さまからの啓示やる。商業に関しては健治がやるやろつから、ワイは開発関係をやるかな。先輩は何をします?」

「そうだね、今まで通り情報管理と農林水産関係は僕がやるのかな。一刀くんは、一般兵士の鍛錬っていう所じゃない?」

「「「ま、太守の仕事をきっちりやってからの話だけど(ね・って・な)」「」」

「それひどくね!?!」

結局、俺の意見はまったく取り入ってもらえず、部屋に戻った俺は仕方なく判子を右手に、【ぺたこん】【ぺたこん】と目を通した書類に判を押していく日々。

それから暫く経った、雲ひとつ無い青空でお洗濯日和だなあと思つて窓の外の景色を眺めていたある日、

「大変ですつて!海賊が現れましたー!」

息を切らしながら健治が俺の執務室に走りこんできた。

俺は素早く自分のDCPを手にとって画面を見る。するとそこには『Warning』という赤い文字が浮かんでいる。

そして、敵の情報が浮かび上がった。

【白髭海賊団】 兵士総数5万

海や河に面する街や村を広範囲で襲う海賊団

官軍において、団長である白髭（名前は不明）には手を出すなどいわれるほど危険な力を秘めているらしい

「戦いますか？ 戦いませんか？」

- ・ 戦うなら戦争パートに移ります。

・ 戦わないなら、国レベル・資金・住民感情が激減します

「……健治、こんなイベントってあったか？」

「記憶にございません。どうします?」

「そんなの戦争するに決まっているだろうが！俺の地道な政務結果をこんな簡単に潰させて溜まるか！！健治、お前の資金で俺の兵を10体生み出してくれ。ここに喧嘩を売るということがどんなに愚かかっていうことなのかをその身に刻んでやる！！」

【ピロリン♪ 太史慈隊】が発足しました。現在10人

「よっしやあ ああああ！逝ってくるぜえええええ！」

俺は武器を片手に走り出す。その後ろに白髪で動物の顔を模した面を被った屈強な青年たちも続いてくる。負ける気がしないぜっ！！

「……先輩、ストレス溜まってたんだなあ」

備考

名前：太史慈隊 兵種：強化兵

体力：100 攻撃力：100 移動力：100 コスト：100
0（1人につき）

スキル（自動）

『援護防御Lv3』：近くの自軍部隊の防御力を50%上昇

『援護攻撃Lv3』：近くの自軍部隊の攻撃力を50%上昇

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6422y/>

『禁・三国無双』 ～孫呉編～

2011年11月24日18時55分発行